
7月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

7月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

西濃農林 ■ ブロッコリー JAにしみのブロッコリー生産協議会の総会開催

7月3日にJAにしみブロッコリー生産協議会の総会が開催された。今年の作付面積は22.7ha(前年比102%)とする計画である。特に1～2月の出荷量を増やす方針が確認された。

農業普及課では、昨年の生産実績を踏まえ、定植時期、品種別の収量等について説明し、今年度の生産性向上のための改善策を提案した。

この他、6月25日に大垣部会育苗研修会、7月18日に不破部会栽培研修会が開催され、農業普及課からも出席し地域ごとの課題解決を支援している。

中濃農林 ■ 円空さといも 新規栽培者の栽培技術向上

7月24日に農業普及課が、規栽培者及び就農塾の受講生を対象に実習を交えた栽培研修会を行った。

研修会では、JAめぐみの中濃本部、中濃里芋生産組合と連携して追肥、土寄せ等について指導を行った。



【土寄せを研修する受講生】

恵那農林 ■ ブロッコリー ブロッコリー播種研修会を開催

7月12日に農業普及課が、恵那市岩村町の富田営農ほ場でJAひがしみのブロッコリー研究会を対象にした播種研修会を開催した。

農業普及課では、これまで集落営農組織の経営補完品目としてブロッコリー栽培を推進しており、当日は、営農組織等の会員が30名近く参加した。

研修会では、本年度から新規栽培する営農組合が2組織あるため、実際に播種作業を行いながら段取りを確認した。播種作業は、効率化を図るための播種機等の器具類を活用して手際よく行われた。参加者からは、「実際に作業を行うことで作業のコツが確認できた。」と好評であった。

今回播種したブロッコリーは、約3週間後にはほ場へ移植され、10月中旬に収穫されて店頭で販売される見込みである。



【播種方法を学ぶ生産者】

売れる農畜産物づくり

岐阜農林 ■ えだまめ えだまめ収穫体験開催！

7月14日にJAぎふえだまめ部会が、農業普及課と連携してJAぎふえだまめ選果場に隣接する防虫ネット栽培展示ほ場(岐阜市曾我屋)14aで、「岐阜えだまめ」収穫体験を行なった。

収穫体験は、今年で4回目を迎え、参加した約900名の消費者に対して岐阜えだまめのPRを行った。

当日は、食農教育の一環として、岐阜女子大学の学生11名も参加した。



【収穫体験の様子】

揖斐農林■茶 良質な一番茶を採るための栽培管理

揖斐地域では、J Aいび川や(農)桂茶生産組合の主催により各地で青空教室が行われている。

夏場の茶園管理は、二番茶が終わり、来年の一番茶の成績に大きく影響する。そこで、農業普及課では、青空教室の中で、土づくりや土壌改良、干ばつ防止対策、病虫害防止対策、秋肥の施用のほか、生育経過や病虫害発生状況、今後の気象予測に対応した栽培管理などについて講習を行っている。

また、生産履歴記帳、農薬の適正使用、ぎふクリーン農業、GAPの取組に関する情報提供や啓発を行い、適正な取組を推進している。JGAP に取り組む(農)桂茶生産組合では、併せて揖斐郡消防事務組合による救命措置講習が行われ、緊急時の対処法についても学んだ。



【青空教室風景】

可茂農林■大豆 摘心処理技術の検証に向けた活動

農業普及課では、今年度から白川町で「新技術導入広域推進事業」を活用し、大豆の摘心処理により「青立ち」を抑制する技術の実証に取り組んでいる。

白川町集落営農組合連絡協議会、農機メーカー、農業経営課、試験研究機関の協力を得て、7月11日～20日にかけて実証ほで摘心処理作業を実施した。処理時には営農組合関係者、J Aが参加するなど、当該技術に対して注目が集まっている。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら引き続き実証・検討を実施する。



【大豆摘心処理作業】

多様な担い手の育成・確保

郡上農林■新規就農者 関係機関連携による新規就農支援

7月12日に中濃地域就農支援協議会の総会が行われ、農林事務所は構成員として出席した。

協議会では、今年度から青年就農給付金制度が始まることを受け、J A、市、指導農業士等の関係機関と情報共有しながら新規就農者の支援を行うことを確認した。

7月24日には、郡上市内の給付金候補者を対象とした青年就農給付金制度説明会が開催され、出席した7人の新規就農者等に対して関係機関が役割分担しながら支援を行っていくこととした。



【関係機関による新規就農相談】

東濃農林■土岐市鶴里地区集落営農設立準備会 鶴里地区集落営農参加希望者説明会

土岐市鶴里地区集落営農設立準備会は、営農組織(今年度設立予定)への参加希望者に対する説明会を7月26日に鶴里公民館で開催した。

昨年度実施した集落アンケートで、「参加の意志がある。」と回答した20数名に対し参加を呼びかけたところ、6名が参加した。

説明会では、①営農組合の規約案 ②営農組合の活動内容、参加者が期待する活動内容についてのアンケート ③玉ねぎ栽培の取り組み結果報告についての3点について説明があった。



【参加希望者説明会の様子】

参加者からは「経営体としての採算性」、「圃場整備の必要性」などについて質問が出され、準備会メンバーが丁寧に回答した。農業普及課では、営農組織の具体化について今後も支援していく。

下呂農林■人・農地プラン 下呂市内2集落で活動開始

下呂市では、「人・農地プラン」の作成活動を2集落で開始した。

農業普及課では、地域住民代表が参加する座談会に出席し、地域の担い手確保について意見交換を行った。この座談会では、集落住民に対して営農意向等に関するアンケート調査を行うことが決まり、アンケートの集計後に2回目の座談会を行うことになった。



【上原地区での座談会】

飛騨農林■指導農業士会飛騨支部 飛騨市で経営を学ぶ

指導農業士会飛騨支部は、7月12日に飛騨市で会員が夫婦揃って出席して経営研修会を行った。

現地研修では、富山県境に位置する宮川町で飛騨牛一貫経営をする山口牧場や神岡町で最先端宇宙研究施設スーパーカミオカンデを視察した。

また、室内研修では、平工農政部長を招いての県農業振興や10月に長崎で行われる全国和牛能力共進会に向けた飛騨市の取組について学んだ。

農業普及課は、経営研修会の開催に当たって、関係機関との調整を行うなど活動を支援した。



【防疫対策をして畜舎を視察】

農業経営課■なし なし研修会の開催

7月17日に農業技術センターで岐阜県園芸特産振興会なし専門部の研修会が開催された。

農業革新支援専門員からは、ナシ萎縮病について、現地事例及び新たに発見された病原菌の対策等、最新の情報を提供し、ナシ萎縮病への理解を深めた。また、農業技術センターからは、場内ナシ園で幸水の盆前出荷を目標とした早期収穫の試験研究の紹介が行われた。

今年の幸水は、平年並みの生育で多くは盆以降に出荷される見込みである。高単価な盆前は市場からの要望も強く、参加者は熱心に説明を聞いていた。



【研修会の様子】

